

社会変えるアイデア集結

SDGs Quest みらい甲子園
2022年度 静岡県大会レポート

持続可能な未来へ Teen's Action

県内の高校に通う1,2年生より6人のチームが対象に2022年10月1日から12月15日までエントリーを呼び付け、県内20校から16チーム33人が集まった。各チームがそれぞれの設定した課題に対する

解決プランを提出。1次審査の結果、2次審査へ進むファイナリスト16チームに絞られた。2次審査ではプラン内容を生徒がプレゼンテーションする動画提出を課した。5分の制限時間の中で、設定した課題を解決する必要性や実現性、革新性、普及可能性、SDGsの目標への貢献度を、五つの基準で静岡文化芸術大学の武田洋准教授を委員長とした審査委員会審査。最優秀賞、優秀賞、二つの協賛賞の受賞4チームを選出した。

5日、県大会ファイナルが静岡清水区の清水テルサで開かれた。16チームが各自のプランを改めて発表した後、実行委員会が受賞チームを発表した。最優秀賞には焼津中央のチーム「中央TTC2」が提案した「ピンポン玉から考えるプラスチックのリサイクル」が輝き、優秀賞には浜松開誠館「浜松開誠館SDGs部」の「気候マーチ」が選ばれた。協賛賞のMGPLAN賞には三島北高「さんぼると」の「ベトナムの電力とフードロス問題」が選ばれた。

持続可能な開発目標(SDGs)について、高校生が設定した課題を解決しようと考えたアイデアを発表する「SDGs Quest みらい甲子園」(実行委員長 静岡新聞社 藤原隆彦)が昨年に引き続き本県でも開かれた。

アクションアイデア最優秀賞



焼津中央高「中央TTC2」
山田凌輔/間瀬詠友/杉山喜望/増井和也
「ピンポン玉から考えるプラスチックのリサイクル」

卓球部としての活動経験から、廃棄されるボールの再利用方法を発案。ボールが単一素材からできていることから、マテリアルサイクルにより、再度プラスチック製品への加工をすることで、資源の有効活用と二酸化炭素の排出量減少を目指す。

アクションアイデア優秀賞



浜松開誠館高「浜松開誠館SDGs部」
増井瑛太/古山陽葵/チュウドリ・アンジェリ/松野紗季
「気候サミット、気候マーチ」

気候変動問題に立ち向かいたいという目標から、オンライン気候サミットや浜松市内で気候マーチを開催。SNSを使った発信などで、一人一人の意識や行動を変え、少しずつ大きな力としていくことを目的に活動している。

MGPLAN賞



三島北高「さんぼると」
橋本結美/広田咲季/込山望々花
「ベトナムの電力とフードロス問題」

フードロス削減とエネルギー問題を同時に解決するためのアイデア。ベトナムでは水力発電が石炭火力発電に次ぎ2番目の発電量を占めており、食材の発酵から発生させたメタンガスを発電に転用し、電力供給を安定させるためのロールモデルを提案。

実行委員長 講評



武田 淳 静岡文化芸術大学准教授

「SDGs Quest みらい甲子園」静岡県大会は、初の対面開催となりました。最も印象的だったのは、環境問題や社会課題の解決方法を考える高校生たちがとても「楽しそう」だったことです。これは、持続可能性を考えるうえで非常に重要です。なぜなら、楽しさは行動を起こす際のエネルギーになるだけでなく、周囲を巻き込む力にもなるからです。そのような意味で、審査員の方が元気をもらいました。2030年にSDGsが完成年度を迎えた後も、社会は続いていきます。「楽しい」と思える未来を作るために、みなさんのアイデアを共に形にしていきたいでしょう。

秀英予備校賞



星陵高「starhills」
松本蓮音/池野真太郎

「二酸化炭素の増加を食い止めるために〜地味な苔のここがすごい〜」

都市における二酸化炭素の排出量を抑制し、街路樹の他にも植物を増やしていくため、苔(コケ)を活用。二酸化炭素の吸収力が高い他、成長速度の早さや寒さに強い点から苔マットを商品化することで、環境問題に貢献する。

受賞プランはみらい甲子園ウェブサイトで公開中 [みらい甲子園 静岡](#) 検索